

第三〇四回中国文藝座談会 平成三十一年(2019)四月二十七日(土)
於九州大学イースト1号館A239会議室

偃武修文——目加田誠の元号草案について

静永 健 (九州大学)

目加田誠(一九〇四〜一九九四)

九州大学名誉教授。九大中国文学研究室の創始者。学士院会員(一九八五〜一九九四)。大野城市「心のふるさと館」に目加田文庫がある。

【元号「平成」の成り立ち】

- 「平成」案……………山本達郎
- 「正化」案……………宇野精一
- 「修文」案……………目加田誠

【目加田誠「元号草案メモ」】

大野城市目加田文庫所蔵。
西日本新聞本年二月七日に報道。
原稿用紙9枚に手書き。二〇数案。



【①第一紙】

- 1 普徳 『易』乾・象伝
- 2 靖之 『毛詩』昊天有成命
- 3 靖和 右 毛伝
- 4 天昌 『毛詩』離
- 5 修文 『書経』武成
- 6 大猷 『毛詩』小雅・巧言
- 7 允徳 『書経』太甲
- 8 修和 『書経』君奭
- 9 恭明 〃
- 10 敬治 〃

【②第二紙】

- 普徳 『易』乾・象伝 「見龍在田、徳施普也。」
- 靖之 『詩』昊天有成命 「有道則見、膏沢降于民。」 (『漢文大系』引伊藤東涯通解)
- 靖和 右 毛伝 「於緝熙、单厥心、肆其靖之。」
- 天昌 『詩』離 「靖、和也。」
- 「燕及皇天、克昌厥後。」 文王ノ徳……………

【③第三紙】

大猷 小雅·巧言(卷12) P18 「匪大猷是經、維邇言是聽。」(小雅·小旻)

修文 『書』武成 卷六 p13 「偃武修文。」

允德 『書』太甲 卷四 p20 「修厥身、允德協于下。」

【④第四紙】

修和 君奭 卷10 p5 「惟文王尚克、修和我有夏。」

恭明 君奭 卷10 p2 「嗣前人恭明德。」

敬治 君奭 卷十 p8 「祇若茲、往敬用治。」

【⑤第五紙】

1 大有	『易』上		
2 大成	車攻	天昌	孔安
和平	伐木	長道	殷武
成孚	下武	戍女	永保
			載見
			思成
			商頌 那

純嘏	酌	泮水	4 成孚 『詩』下武
長道	長發(商)	永孚	3 永孚 『書』太甲
永孚	『書』太甲	2 大成	『詩』車攻
大明	乾·上九	1 大有	『易』大有
普德	乾		
成文	繫辭		

(文華)?

【⑥第六紙】

大有 『易』上經 大有、元亨。

彖曰、大有、柔得尊位、大中而上下應之。曰大有、其德剛健而文明、

應乎天而時行、是以元亨。

大成	車攻
和平	伐木
景福	旱麓·行葦·既醉
成孚	「成王之孚」 下武
純熙	酌

【⑦第七紙】

長道 泮水

天休 『詩』長發（商頌）

永孚 太甲（商書） 「其永孚于休。」

大明 乾・上九・象伝

普徳 乾

成文 繫辭・上

文華（?）

正路 『孟子』

【⑧第八紙】

①大有

①大成

①永孚

①成孚

×成徳 烈祖之成徳（伊訓） 乾 君子以成徳為行也。

×明徳 皇矣 「帝遷明徳」 「其徳克明」

①成之 靈台

②天昌 周頌・離

【⑨第九紙】

『易』乾 「君子以成徳為行、日可見之行也。」 『周易』卷一、一六頁。

離 「直哲維人、燕及皇天、克昌厥後。」 『詩』頌（卷十九、一四頁）

雍 而してよく萬民をなで安んじて、其ノ徳天に及び、陰陽やはらぎて災妖生ぜず

又それ天の祐助によりて、よく後嗣をもさかへしめ玉へり

（『詩経示蒙句解』 5 1 6頁）

永保 載見（臣工之什）

★まとめ

『易経（周易）』から……普徳・大有・大明・成文・成徳

『書経（尚書）』から……修文・允徳・修和・恭明・敬治・永孚

『詩経（毛詩）』から……（国風の諸篇からは取らない）

大猷・大成・和平（小雅より）

成孚・景福・明徳・成之（大雅より）

靖之・靖和・天昌・純熙・永保（周頌より）

長道 （魯頌より）

天休・孔安・思成（商頌より）

その他から…… 『文華（?）』『論語』雍也篇 「文質彬彬、然後君子」の邢昺の疏に、

「言**文華**質朴相半彬彬然、然後可爲君子也。」とある。（

正路（『孟子』離婁上篇）

★孟子曰、自暴者、不可与有言也。自棄者、不可与有為也。

言非礼義、謂之自暴也。吾身不能居仁由義、謂之自棄也。

仁、人之安宅也。義、人之**正路**也。曠安宅而弗居、舍正路而不由、哀哉。
孟子曰、道在邇、而求諸遠。事在易、而求諸難。人人親其親、長其長、而天下平。

★『詩經』商頌「長發」 (目加田誠訳Ⅱ『目加田誠著作集第二卷』より)

濬哲維商、長發其祥。 深く哲きは商の世々の君、その祥兆久しくあらわれぬ

…… (中略) ……

帝命不違、至於湯齊。 天命たがうことなく、湯王に至って成就しぬ。

湯降不遲、聖敬日躋。 湯の降生その期に応じ、聖徳恭敬日々に升り、

昭假遲遲、上帝是祗。 天に達して已まず、上帝これを敬うて、

帝命式于九圍。 九州に法を施かしめたり。

受小球大球、爲為下國綴旒、 小大の球をうけて、諸侯の表章となり、

何天之休。 天の福を荷いぬ。

不競不綌、不剛不柔。 競からず綌からず、剛ならず柔ならず、

敷政優優、百祿是遒。 政をゆたかに施いて、百祿をその身に集めぬ。

…… (後略)

★『書経』武成篇 (紀元前十一世紀、牧野の戦いで殷に勝利した周武王の演説)

惟一月壬辰、旁死魄。越翼日癸巳、王朝步自周、于征伐商。

厥四月、哉生明。王來自商至于豊、乃偃**武修文**、歸馬于華山之陽、

放牛于桃林之野、示天下弗服。

丁未、祀于周廟。邦甸・侯・衛、駿奔走、執豆籩。

越三日庚戌、柴望。大告武成。

既生魄。庶邦冢君暨百工、受命于周。

王若曰、「嗚呼、羣后。惟先王建邦啓土、公劉克篤前烈。

至于大王、肇基王迹、王季其勤王家。

我文考文王、克成厥勳、誕膺天命、以撫方夏。

大邦畏其力、小邦懷其德。惟九年、大統未集。

予小子、其承厥志、底商之罪、告于皇天后土、所過名山大川。

曰『惟有道曾孫周王發、將有**大正**于商。

今商王受 (Ⅱ紂王) 無道、暴殄天物、害虐烝民、爲天下逋逃主、

萃淵藪。予小子 (Ⅱ武王) 既獲仁人、敢祗承上帝、以遏亂略。

華夏蠻貊、罔不率俾、恭天成命。』

肆予東征、綏厥士女。惟其士女、筐厥玄黃，昭我周王。

天休震動、用附我大邑周。惟爾有神、尚克相予、以濟兆民、無作神羞。』

既戊午、師逾孟津。

癸亥、陳于商郊、俟**天休命**。

甲子昧爽、受率其旅若林、會于牧野。罔有敵于我師、前徒倒戈、攻于後以北。

血流漂杵。一戎衣、天下大定。

乃反商政、政由舊。釋箕子囚、封比干墓、式商容閭。

散鹿臺之財、發鉅橋之粟。大賚于四海、而萬姓悅服。列爵惟五、分土惟三。

建官惟賢、位事惟能。重民五教、惟食喪祭。惇信明義、崇德報功、垂拱而天下治。

〔参考〕

* 千葉卓三郎 「五日市憲法」

^f 新井勝紘 『五日市憲法』 (岩波新書赤版、2018)

* 持久力と耐久力に富む漢字世界と梵字世界

^c ^f 鈴木董 『文字と組織の世界史―新しい「比較文明史」のスケッチ』

(山川出版社、2018)